

**BIPROGY研究会 中部支部  
会員各位****BIPROGY研究会 中部支部**

# 2023年度 研究活動 【中部支部】参加者募集のご案内

拝啓 日頃よりBIPROGY研究会活動にご協力、ご支援をいただき厚くお礼申し上げます。BIPROGY研究会では、会員の皆様が日常業務の中で抱えている課題等を研究テーマとし、テーマに関する知見を取得するのみに留まらず、課題を克服すべく仮説を立て検証し、研究活動成果を報告書として取り纏め発表していただく研究活動を行っています。

ビジネスヒントの発掘や企業の枠を超えた人材育成、異業種交流の場という目的としてご活用ください。活動を通じて自社へ活動成果をしっかりと持ち帰っていただけるよう、研究グループ毎にBIPROGYグループ社員によるアドバイザー制度や運営メンバー、事務局によるフォローをしっかりと行っていきたいと思います。

また、5月より新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが変更されることに伴い、Web会議を取り入れつつ、対面での活動を増やし、異業種交流での人脈、視野の拡大に活かしていただきたいと思います。従来同様に企業の枠を超えた「異業種交流」「人材育成」の場としては非活用いただきたく、下記要領にて活動参加お申し込みをお待ち申し上げます。

敬具

## 1. 研究テーマ

ご応募いただく研究活動テーマは巻末にございます。  
「2023年度(R5) 研究活動 募集テーマ一覧」をご覧ください。

## 2. 参加資格

BIPROGY研究会会員企業（会員企業の方であればどなたもご参加いただけます）  
リーダ・担当者クラスの方々を広く募集します。

## 3. 参加費用

- ①本年度研究活動費として1企業あたり ¥20,000を申し受けます。
  - \* 参加人数に係わらず、1企業あたり ¥20,000
  - \* 参加メンバー確定後、「連絡責任者」へご請求させていただきます。  
尚、請求書送付先が連絡責任者と異なる場合は申し込みの際に連絡欄に  
ご記入願います。
- ②会合活動のための交通費、通信費等経費は参加者負担とさせていただきます。
- ③後述記載の合宿研修（7月開催予定）については、別途参加費を申し受けます。

## 4. 申し込み方法

下記サイトからお申込みください

<https://form.biprogy.com/public/seminar/view/25031>

\*お申込みいただいた方に、別途ご参加希望テーマの確認連絡をさせていただきます

⇒ 2023年5月17日（水）までにお申込みください

## 5. 研究活動の運営について

①研究活動のチームは1チーム5名～7名程度とさせていただきますが、  
お申し込み状況によって判断させていただきます。

\*期限内に定員に満たない場合、第2希望のテーマでの研究活動をお願い  
することができますので予めご了承ください。

また、中部支部内で定員に満たない等の場合、他支部のテーマ／チーム  
との編成について相談させていただく事もございます。

\*異業種交流の観点からも同じテーマに同じ会員企業様が多くならない様に  
調整もさせていただきますのでご理解の程お願いいたします。

②主体はご参加いただく皆様です。

基本的にはグループに参加された方の自主活動で、日中の業務時間内での  
説明会や会合が予定されることもございますので、その旨ご了承願います。

また、BIPROGYグループもアドバイザーとして皆様の活動を支援いたします。

## 6. 活動期間と会合回数

①本年5月より2月末まで（発表会を除く）研究活動でグループにより差が  
ありますが、日中の通常業務時間内でグループ単位にて調整いただく会合  
として、月2回程度の会合を見込みます。

ご自身の業務に支障をきたす活動は本来の活動の形ではありませんので、  
ご参加いただいた皆様も限られた時間の中で効率よく活動を行っていただけ  
ますよう、予めご理解いただきご参加いただきますようお願いいたします。

②中部支部で成立したグループの第1回目の会合については、発足会を兼ねて  
5月24日（水）午後に行いますのでご予定ください。

詳細は参加申し込みをいただいた方に別途E-mailなどでご案内いたします。

また、年間の主な活動スケジュールにつきましては巻末に掲載していますので  
ご確認願います。

## 7. お問い合わせ先

〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄1-3-3朝日会館

BIPROGY（株）内 BIPROGY研究会 中部支部事務局（担当：近江・辻）

TEL: 050-3132-2689 / E-mail: [biprogy-ken-chubu@biprogy.com](mailto:biprogy-ken-chubu@biprogy.com)

## 8. その他

ご報告いただいた研究活動成果（研究活動活動報告書やプレゼン資料、その他各種資料を含む）の著作権は著作者に帰属するものとします。但し、著作権はBIPROGY研究会が情報発信する機関誌やWebサイトにおいて、著作者の研究活動活動成果の掲載・配布に関する権利（個人名・会社名・所属先の公開を含む）をBIPROGY研究会に無償で許諾するものとします。

## ≪主な活動スケジュール（状況により変更、中止になる場合があります）≫

### 5月24日（水） 全体発足会 および 第1回会合（オンライン/リアル開催）

事務局からチーム編成、今後の計画などについて説明いたします。  
その後、チーム毎でメンバー内で自己紹介・今後の進め方・次回会合日程決めなどを話し合っていただきます。

### 7月21日（金）～22日（土） 研究活動合宿研修 静岡県伊東市にて開催

BIPROGY(株)の施設「伊豆エグゼクティブセンター」にて2日間の集中合宿を行います。本合宿の最後にはそこまでの研究活動の状況をプレ発表する場を設けており、他のグループと意見交換を行います。

### 9月1日（金）～2日（土） 全国：サマースクール 静岡県三島市にて開催予定 (リーダー・サブリーダー対象)

研究テーマに対する知識や技術を具体的な課題を解決する為に、仮説を立て今後のアプローチ・方向性をグループ内でしっかり議論してその内容をご報告いただきます。  
(詳細は別途リーダー・サブリーダー確定後ご案内いたします。)

### 12月中旬 中部支部内 報告書 進捗説明会

報告書の内容の精度を上げるために、第三者(出来れば研究活動経験者)などに説明して、矛盾など指摘いただきます。重要な場です。

### 1月末 研究活動報告書 提出期限

提出された後、研究活動運営委員の皆様により、活動報告書の表現力・構成力はもとより、汎用性・有効性・独創性・独自性などを考慮して査読審査をさせていただきます。最後に報告書の評価点がつけられます。3月に行う発表会の評価点とあわせて入賞チームが決まります。

### 2月央 中部支部内 研究活動プレ発表会

全国研究活動の発表会に向けて、中部支部内で独自の発表会を行います。発表会には他グループとか参加された方から、感想意見をいただきますので、それを受けた発表方法・発表資料の質向上を図れればと思います。

### 2月末 研究活動発表資料 提出期限

### 3月8日（金）全国：グループ研究活動 発表会 東京都有明にて開催予定

中部で行った発表の経験を生かし発表することになります。全国各支部グループの発表は発表資料含めての発表の評価点が審査委員によって厳正につけられます。最後に先に提出した報告書の評価点とあわせ入賞チームが選ばれます。特に優れた成果を残したグループには、BIPROGY研究会で最も栄誉のある『エッカート賞』候補としても推薦されます。



# 2023年度(R5) 研究活動 募集テーマ一覧

BIPROGY研究会 中部支部

No.	キーワード	募集対象組織	テーマタイトル（案）	推薦する理由ならびに活動内容（案）
1	AI開発	情報システム部門、SE	企業業務における使えるAI開発	<p>企業業務において有効なAIとは何か。いつまでたっても、業務に適用できないものが多い。AIでは、求められた答えが正しいのかどうか、どのような根拠でもとめられたのか曖昧さが拭い去れない。精度を追求すれば、終わりがない。</p> <p>ロジックがブラックでもよいもの。明確でないと駄目なもの、100パーセント正しいと言えないで使えないもの、80パーセントの正答率でも良いものなど、AIを構築していく上においての向き不向き、また、どのような対策・対応があれば、途中段階で活用でき、成長（精度向上）させて行けるかを考える。企業業務における「使えるAI」の開発プロセス、手段、手法を考察する。</p>
2	カーボンニュートラル×DX	経営戦略・情報システム企画	カーボンニュートラルを促進するDX戦略	カーボンニュートラル実現に資するDX戦略を考察。カーボンニュートラルを実現するには、さまざまな用途でDXが欠かせないため、「カーボンニュートラル」をテーマとしてIT部門の戦略的な関与の在り方（関わり方や変革の方向性）を思考し、実現に向けた活動につなげていく。
3	SNSと情報倫理	全般	一億総SNS時代の倫理観	情報端末を持つ者全てが全世界に向けて自己表現出来る時代、発信者/受信者は何を指標に、どのように情報と接していくべきなのか。SNSの情報に振り回されないように必要な情報リテラシーなど、SNSの進歩と社会の情報倫理観について考察する。
4	デジタル社会の実現	全般	人にやさしいデジタル化の実現	<p>デジタル庁は「デジタルの活用で一人ひとりの幸せを実現するために」というスローガンのもと、デジタル社会の実現に向けた重点計画を推進している。</p> <p>その中で誰一人取り残されない、人にやさしいデジタル化を掲げているが、人にやさしいデジタルとはどのようなものであり、現在のIT技術をどう活用することで何がやさしくなるかを考察する。</p>
5	高齢化社会	全般	高齢化社会におけるICTの活用	これからさらに加速される高齢化社会に向けて、高齢者が安心、安全に生活できる社会を構築するためにできることは何か？高齢者のデジタルデバイドを解消し、高齢者によるICT利活用がどのような効果をもたらすのかを考察する。